

発言通告書の要旨(一般質問)

令和2年第3回定例会

質問日	質問者順	議席/氏名	件名	要旨
9/8 (火)	1	14 横山 強	1、新永康病院建設について	(1)新設場所として、取得とする隣接の用地に関わる問題点等 (2)ECI発注方式とした問題点と、疑問点等 (3)ECI方式で新設による、施工者・CM・設計業者による建物期間保証等の問題点 (4)ECI方式と、通常とした競争入札による事業費の比較とした問題点等 (5)当初基本設計と、実施設計に関わる施工業者技術協力とする疑問点等 (6)ECI方式による事業採択とした工程と、現状による問題点等 (7)永康病院新設場所を地盤調査後、建設とする問題点等 (8)新永康病院建設場所は、前面・後面が河川、軟弱地場所に医療機関とした問題点等 (9)新設場所で永康病院を強行するならば、この場所を選定した責任保証の問題点等 (10)新設場所が、軟弱地・地震・津波等による危険度がある結果において、医療患者、医療に関わる職員の生命を守る観点から永康病院新設は現在の場所に建設とする提案等 (11)1～10項目以外の永康病院新設事業に関わる質問等含む。
	2	10 近藤 武	1、コロナによる差別について	新型コロナウイルスの感染拡大によって、感染者やその家族、医療従事者などに対する差別やいじめが社会問題化している。どうすれば差別やいじめをなくすることができるのか。また学校も始まり児童生徒に対し、これからどのように市として対応していくのかを質問する。
			2、地域農産物付加価値づくり事業について	三豊市地域農産物付加価値づくり事業～みとよのみプロジェクト～について、これまでの取り組みと、今年度の売ることへの取り組み等について質問する。
			3、組織機構について	行政の組織や機構の改編は、その時々時代のニーズに応じて見直しが行われてきた。住民サービスのニーズが多様化していることや、あるいは新しい課題、問題が次々に生じてきていることにどう対応していくかということが求められる。各課専門分野がある業務は今以上に横断的に連携していく必要があるのではないのかを質問する。
	3	19 浜口恭行	1、せとうちスマートアイランド構想とワーケーションについて	本年度内閣府の「SDGs未来都市」に事業選定され、特に注力する取り組みとして、粟島をスマートアイランド化する構想が提案されている。この中で、人口減少、特に高齢化や空き家の増加などの課題が山積する粟島へは、今後は地域の課題を解決するべく、「せとうちスマートアイランド構想」から、どのように地域の活性化に繋げていく施策を考えているのか。 またコロナ禍では、観光地で休暇を取りながらテレワークをする「ワーケーション」への関心が本市の粟島や荘内半島でも高まっていると聞く。 当局の粟島「せとうちスマートアイランド構想」と併せて、ワーケーションなどへの全般的な今後の取り組みや拡がりを聞きたい。
			2、鳥獣被害対策について	7月末に本市詫間町で農作業をしていた無職女性がイノシシに襲われるという痛ましい事故があった。 今や有害鳥獣による被害は、農業だけにとどまらず、近年は家屋や人間にまで被害が及ぶという状況が全国各地で報告されている。 人が襲われたという点での対策の強化が急務であると考えるが、本市の鳥獣被害の現状と対策、現在までの検証などがされているのか、ICTを利用した捕獲の現状など、市民の安全安心を高めるためには鳥獣被害について、今以上に対策を強化する必要があると思うが当局の考えを聞きたい。

9/8 (火)	4	18 西山 彰人	1、市長の施政の在り方について	市長は、前市長の政策を当面踏襲しているように思われるが、市長独自の施策(何をしたいのか、何を優先したいのか)を打ち出すべきと思うがどうか。
			2、法令順守(コンプライアンス)について	法令順守が不十分ではと思われることが起きている。法令順守に対する考えと、職員に徹底するための方策を伺う。
			3、人権に対する考えについて	人権侵害は、多くの場合差別を伴うが、防止するための対策と人権施策を伺う。
	5	2 金子 辰男	1、マイナンバーカードの活用及び普及について	コロナ禍で、給付金10万円事業にマイナンバーカードはどのように活用されたのか。また三豊市でマイナンバーカードを使用してのオンライン申請は何件あったのか。手続きの不具合はなかったのか。マイナンバーカードの独自利用として、三豊市で印鑑登録証や図書カード、災害時の罹災証明など、市民環境部、総務部など、部局の枠を超えた独自利用の考えはないのか。今後の展開を伺う。独自利用を考える上で、普及が必須となるが、普及率は向上しているのか伺う。
			2、老朽化した農業施設の市独自の取り組みについて	農業従事者の高齢化や後継者不足により、農業用施設の維持管理に必要な修繕、修理が間に合わないケースがあるように聞いている。ため池の補修に至っては猪が原因の場合は、県補助事業対象外とされたと聞いている。市独自として補助事業、原材料支給の整備がある。しかしながら、事業規模が大きいため、内容に応じた支給、補助事業費の限度額や補助率の見直しを検討してはどうか。老朽化した農業施設の緊急時対応を想定しての取り組みを伺う。
			3、これからの韓国、ハプチョン郡の友好都市縁組をどのように考えているのか。	今年に入り、コロナの世界的流行により私たちの三豊市にも感染が広がってきた。毎日がなんとなくすっきりしない中、飛び込んできたニュースが、謝罪像のニュースである。香川県内では唯一韓国の町と友好都市縁組をしている三豊市である。今後の交流についてはどのように考え取り組む予定かを伺いたい。
9/9 (水)	6	11 高木 修	1、全員参加の提案活動の推進について(古くて新しい取り組み)	他自治体で、提案活動を積極的に展開し、成果を挙げているケースがある。提案活動自体は古い手法だが、広く全員参加でアイデアを募り、可能であれば、内容が優れたいい提案には報奨金を手交しても新鮮だと思う。検討してみたいか。三豊市では、過去そういう取り組みはなかったのか。執行部・議会を巻き込んで多くの知恵を集めることは、強い力につながると考える。執行部の見解をたずねる。
			2、在留外国人の子どもの教育について(権利と義務)	出入国在留管理庁によると、令和元年6月末現在、在留外国人は過去最大を数え、282万人となり、日本の総人口2.2%を占めている。三豊市でも、令和2年5月現在1,048人となり、内、15歳以下の子どもが27人含まれている。憲法および教育基本法は、国民に、子女に普通教育を受けさせる義務を課している。外国人には課せられないと解されるが、国際人権規約等の規定を踏まえると、事実上外国人の子どもの、教育を受ける権利をも保障していると解せられる。三豊市における、外国人子女教育の現状と課題について教えていただきたい。
			3、公民館における、禁酒ルールを貫くことの是非について(潤滑油として見直しは)	昨年度、公民館での禁酒ルールが徹底されたが、この方針に疑問を抱く市民は多い。今時深酒をして周りに迷惑をかける人など見かけない。例えば、敬老会での食事会で乾杯もできないのか。公民館は、地域の大切なコミュニケーションの場でもある。早急に見直しを願いたい。

9/9 (水)	7	4 田中達也	1、新型コロナウイルス感染症対策としての「接触確認アプリCOCOA」と「かがわコロナお知らせシステム」の普及促進について	厚労省が提供する接触確認アプリ(通称COCOA)は、匿名で感染者と接触があったことのみが確認できる仕様であり、同省から「アプリにより接触が確認された場合、公費でPCR検査が受けられる」よう各自治体に通知されていることから、感染防止・コロナハラスメント防止の両面で、極めて有効な手段といえる。 また、LINEアプリを活用し、感染者が訪問した店舗、イベント等に同日訪問した人に対して、感染者との接触の可能性をお知らせする「かがわコロナお知らせシステム」を香川県が提供している。 これらを早期に普及させることは、三豊市民の安全・安心にとって必須であるため、期限付きの目標を定め、あらゆる手段を講じて取り組むべきと考える。 これらの仕組みに対する三豊市の評価、普及促進に対する考えとその手段について質す。
	8	5 丸戸研二	1、魅力ある農産物の生産・流通・販売について	(1) 具体的にどう取り組んでいるのか (2) 薬用機能性作物の導入について ・栽培の拡大 ・販路の確保
			2、公共施設の再配置について	(1) 現在遊休化している公共施設の量的現状 (2) これら遊休公共施設の維持管理費用 (3) 今後遊休化すると見込まれる公共施設の見直し (4) 再配置の計画的取り組みと実績 ・時間軸を置いた取り組み ・合併特例債との関係 ・市民ニーズの把握と機能の調整
			3、有害鳥獣対策について	(1) 有害鳥獣対策の位置づけ ・第2次総合計画 ・令和2年度施政方針 (2) 地域ぐるみ鳥獣被害防止対策事業の見直し (3) 捕獲奨励金の見直し (4) 鳥獣被害対策実施隊について
	9	21 瀧本文子	1、少子化と子どもの貧困について	「子どもの貧困」という言葉が叫ばれて久しいが、このコロナ禍において、一層その深刻の度合いが増しているのではないかと。子ども7人に1人が貧困という厚生労働省のデータでも分かるように、一見目には見えないけれど、満足にご飯が食べられない子どもや、年間所得が約170万円という、標準的な所得の半分以下といった、ひとり親家庭の場合、周りの人が当たり前に行っている生活がお金がないためにできない、ということが現実には起きている。 三豊市においても、「みと子ども未来応援計画」の中で、その実状が垣間見えるが、経済的格差が教育格差を生むこと、深刻な少子化によって、地域の存続そのものが脅かされる事態も明らかになりつつある。 すべての子どもが夢や希望を持てる地域、社会をどう実現していくのか。私たち大人に課せられた大きな課題である。 三豊市における子どもの貧困の実状、その解決の手立て(学習支援、子ども食堂、居場所づくり)等について、質問する。
	10	8 水本真奈美	1、障がい者福祉について	障がい者手帳の再認定・更新申請時に必要な診断書等の費用に対する負担軽減のため、助成の考えを伺う。
			2、学校教育のICT化について	(1) コロナ禍での教育現場における心のケアと学びの現状と課題 (2) ICT整備計画の取り組みと小6・中3生は最優先と共に特別な支援を必要とする子どもたちに優先的配備の考え
			3、教員の働き方改革について	(1) 統合型校務支援システム導入の考え (2) 給食費の公会計化の状況について伺う。
			4、コロナ禍におけるコミュニケーション支援について	軽度難聴者が新型コロナ感染予防対策で市役所の窓口にはアクリルパネル、マスク着用対応の中で特にコミュニケーションに苦慮する場面が増加している。行政サービス向上のためコミュニケーション支援を伺う。

9/10 (木)	11	13 坂口晃一	1、組織改革の考え方を問う	(1)職員の意識改革の対策は (2)農林振興の計画の方向は (3)農地有効活用と規制緩和の考え方と解決策は (4)企業誘致の作戦について
			2、少子化が加速中での三豊市の教育方針について	(1)学力、体力向上策を問う。目標と計画はどうか。 (2)教育施設の統廃合計画の変更と理由は何か。 (3)今後の教育方針を示せ。
	12	9 込山文吉	1、SDGs未来都市について	コロナ禍での自治体SDGsモデル事業(スマートアイランド構想)栗島・志々島振興について (1)移住・定住推進の取り組みについて考えを聞く。 (2)光ファイバー整備の推進についての考えを聞く。
			2、バリアフリー化計画について	三豊市障がい者計画(第4期)第5節生活・活動の場の充実で公共施設等のバリアフリー化の推進を掲げている。方針として障害のある人が利用する施設や設備については、バリアフリー化を図っている。 (1)公共施設・公共設備のバリアフリー化推進計画を聞く。 (2)安全な道路交通環境の創出とあるが、具体的な計画を聞く。
			3、スポーツ施設整備計画について	スポーツ推進計画は完成した。スポーツ施設整備計画の策定について考えを聞く。 (1)旧町時代に各町で整備された21のスポーツ施設があるが、今後すべての施設を整備、維持できるとは思えない。各スポーツ団体の意見も聞き、統合なども視野に入れた整備計画策定が必要ではないかと考える。考えを聞く。
			4、中学校統合について	スポーツ少年団に入っている子供の保護者から、中学校に入るとクラブが無いためスポーツが続けられない。住所を親戚に移して、クラブのある中学校に通いたいと子供が希望している、と相談をいただいた。 (1)スポーツの面からの意見ではあるが想像以上に深刻である。中学校統合の考えを改めて聞く。
	13	1 岩田秀樹	1、医療機関、介護施設、福祉施設、保育所、幼稚園、学校などに勤務する職員と、出入り業者を含む関係者全員に定期的にPCR検査を	ワクチンのない現在、感染拡大を抑止するにはPCR検査を大規模に実施し、陽性者を隔離・保護する取り組みを行う以外にない。 (1)地域の住民や事業所全体に対して、大規模なPCR検査を実施する。 (2)地域ごとの感染状況の情報を住民に開示するなど取り組みについて伺う。
			2、小中学校40人の学級編成(三豊市は35人)を20人程度の少人数学級に	全国知事会、全国市長会、全国町村会の会長が連名で、文科相に「提言」を提出し要請した。全国連合小学校長会の会長も「ウイズコロナの時代では20～30人が適当」と語っている。全国の自治体では、少人数学級の教育効果はかなりあると認め、段階的に30人規模学級を導入している県もある。三豊市では25人規模の学級も多くあり、35人学級編成としているが、20人規模とし当面30人規模の学級編成の実現について伺う。
			3、避難場所の視点から、体育館のエアコン設置について	どこでも災害が発生しやすい状況になっている。学校の体育館や公民館などに指定避難場所として設けられている。避難所レイアウト例などでも出されているが、施設面での充実ができていない。まず避難所体育館のエアコンの設置について伺う。
			4、内水氾濫防止対策の取り組みは	高瀬川支流の浜堂川の改修が始まっている。この工事は川に流入した水が海まで流れるように、中途であふれださないようにするものである。外水氾濫は、台風など豪雨時に上流で集められた雨水が河川水位を上昇させ、堤防を越流するか破堤を起こす。内水氾濫防止対策の取り組みはどのようになっているか伺う。
			5、公共施設等総合管理計画に基づく取り組み実態は	延べ面積の50%以上減らす計画だが、市の建設総延べ面積の40%は学校関係である。他自治体の計画は、50%を超える削減をしている自治体は見ることがない。多くて40%台である。これまで必要だから建設した施設のはず、住民のくらしを土台に計算せず、そろばんを弾いて結論を出す。縦割り行政そのもの、住民の願い声が反映しない。実態はどうなっているのか伺う。

9/10 (木)	14	3 湯口 新	1、コロナで直接影響を受けた事業者への対応について	市内でコロナ感染が確認された方が増えるにつれ、その関係先として臨時休業を余儀なくされる事業所も増えている。そういった事業者へのアフターフォローについて伺う。
			2、市内スポーツ施設の利便性の向上と利用促進について	市内のスポーツ施設の更なる利便性の向上と利用促進について伺う。
			3、外部人材登用の考え方と雇用について	地域おこし協力隊や企業人など外部からの人材登用が増えている。外部人材登用の考え方と雇用などについて伺う。
	15	17 三木秀樹	1、「新しい生活様式」下での三豊市の将来不安 独自の「給付型奨学金」やるべきではないか	2020年4月から始まった国の「給付型奨学金」「授業料免除」等の無償化法では、三豊市への就職対策にならない。「新しい生活様式」は、市内の「過疎化」「高齢化」を急激にすすめる要素をもつ。独自の給付型奨学金制度を「ふるさと納税」を財源に早急に取り組む時期にあるのでないか。
			2、コロナ禍での「相談総合窓口」の設置に向けた進捗状況を聞く	「第2波」真ただ中である。6月に要望し、前向きに検討設置するとして「生活困窮者など含めた方々の暮らしや営みを守るため」相談総合窓口は、支所、本所に設置できているのか。
			3、コロナ禍「新しい生活様式」での不安 その1「災害対策」を聞く	(1) 高齢者のみ世帯からの豪雨等時での避難情報への要求について (2) 豪雨、台風による住宅の浸水不安から、河川に沈殿する汚泥の浚渫要望が「届かない」点について
			4、「新しい生活様式」での不安 その2「過重労働」の対策は	保育所、幼稚園職場でのコロナ対策による精神的負担及び過重労働の状況把握の有無と改善策を聞く。